



医師



就任挨拶と脳出血に対する 神経内視鏡手術について

脳神経外科部長 松平 哲史

この度、平成29年4月より前任の海南病院から当院脳神経外科部長として着任いたしました松平 哲史と申します。これから脳神経外科に関するすべての診療にかかわってまいります。

我が国では超高齢社会に突入し、高齢者特有の疾患に加え転倒や交通事故による頭部外傷も増加傾向にあり、高齢者の救急搬送件数も増えていく一方です。その一つが脳卒中による搬送です。現在死因第4位の疾患であり、後遺症は患者さんのADL(食事・着替え・入浴などの日常生活動作)に大きく影響する為、その原因となる生活習慣病や不整脈を予防することがますます重要になるかと思われます。

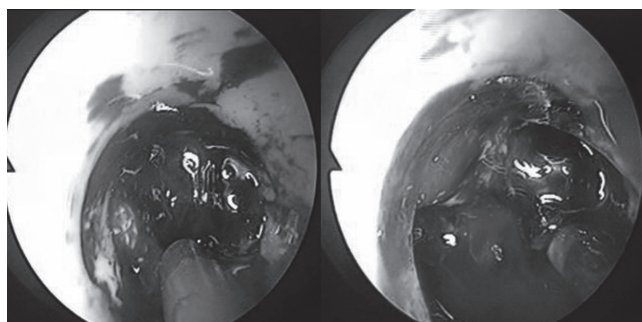
さて、昨今脳神経外科手術といえば顕微鏡手術の他、カテーテルによる手術(血管内手術)もメジャーとなりました。その中に新しく内視鏡による手術が近年増加傾向にあります。内視鏡といえば胃や大腸、肺などに使用されるイメージですが、脳神経外科領域で例をあげますと脳卒中の一つである脳出血に対して皮膚を大きく切開する開頭手術を行わずに血種を摘出する手術があります(内視鏡的血種除去術)。局所麻酔下にて数cmの皮膚

切開で手術ができるため高齢者にも適応となり、手術後早期にベッドから離れ、回復期リハビリテーションにスムーズに移行できるようになります。

今年最新の4K画像システム内視鏡も導入し、脳神経外科医も3名体制となり、スムーズな脳神経外科診療や手術を行える体制が整いつつあります。めまいや強い頭痛、手足のしびれなどでお困りの方がいらっしゃいましたら、一度当院の脳神経外科もしくは神経内科を受診してください。



4K内視鏡システム



内視鏡的血種除去術